

平成 30 年度水稲関係生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 30 年度水稲関係生育調節剤試験成績検討会は、平成 30 年 12 月 6 日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者 27 名、委託関係者 19 名ほか、計 63 名の参集を得て、健苗育成を目的としたもの 4

剤(適用性 19 点)、登熟向上を目的としたもの 4 剤(適用性 12 点)、倒伏軽減を目的としたもの 1 剤(適用性 4 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については次の判定表に示す通りである。

平成 30 年度水稲関係生育調節剤試験 判定

< 健苗育成 >

No.	薬剤名 有効成分 [委託者]	ねらい	判定	判定内容
1	NC-235 顆粒水和 クロラントラニプロール:25% アミスルプロム:12.5% [日産化学]	・発芽後処理での根部生育及び発根促進効果と移植後の活着促進効果	継	継)効果・薬害の確認
2 -1	NF-171 フロアブル ピカルブトラゾクス:10% [日本曹達]	・育苗箱処理(播種時)による根部の生育促進効果及び移植後の活着促進効果(使用量2000倍液500mL/育苗箱への拡大)	実	実)根部の生育促進および移植後の活着促進 ・播種時または発芽後(緑化始期) ・1000~2000倍液500mL/育苗箱 2000倍液1000mL/育苗箱(発芽後処理を除く) ・土壌灌注処理
2 -2		・育苗箱処理(発芽後緑化始期)による根部の生育促進効果及び移植後の活着促進効果(使用量2000倍液500mL/育苗箱への拡大)		
3 -2	SB-9232 顆粒水和 ダイムロン:20% [エス・ディー・エス バイオテック]	・育苗箱処理による根部の生育促進効果および移植後の活着促進効果	継	継)効果・薬害の確認
4	イソプロチオラン 水和 イソプロチオラン:40% [日本農薬]	・根の伸長及び発根促進効果 ・苗の充実度の向上効果	継	継)効果・薬害の確認

< 登熟向上 >

No.	薬剤名 有効成分 [委託者]	ねらい	判定	判定内容
5	NGR-072 粒 イソプロチオラン:12.0% エチプロール:1.5% [日本農薬]	・高温登熟下における登熟向上効果 ・高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果 ・割れ粍発生軽減効果	実・継 従 来 通 り	実)登熟向上 ・出穂前10～20日 ・4kg/10a ・湛水散布 継) ・高温登熟下での登熟向上、品質向上効果の確認
6	NGR-1202 ジャンボ イソプロチオラン:36.0% [日本農薬]	・登熟向上効果 ・高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果 ・割れ粍発生軽減効果	実・継	実)登熟向上、高温登熟下での登熟向上・未熟粒発生軽減 ・出穂10～20日前 ・75g×15個 ・湛水散布 注)5cm程度の水深で散布する 継) ・効果の変動要因について ・75g×10個処理での効果・葉害の確認
7	イソプロチオラン 粒 イソプロチオラン:12.0% [日本農薬]	・3kg/10a処理での効果・葉害の検討(薬量拡大) ・高温登熟下における登熟向上効果 ・高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果 ・割れ粍発生軽減効果	実・継 従 来 通 り	実)登熟向上、高温登熟下での登熟向上・未熟粒の発生軽減 ・出穂10～20日前 ・4kg/10a ・湛水散布 継) ・効果の変動要因について ・3kg/10a処理での効果・葉害の確認
8	イソプロチオラン1kg 粒 イソプロチオラン:36.0% [日本農薬]	・高温登熟下における登熟向上効果 ・高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果 ・割れ粍発生軽減効果	実・継 従 来 通 り	実)登熟向上 ・出穂10～20日前 ・1kg/10a ・湛水散布 継) ・高温登熟下での登熟向上、品質向上効果の確認

< 倒伏軽減 >

No.	薬剤名 有効成分 [委託者]	ねらい	判定	判定内容
9	SSDF-20W 粒 ウニコナゾールP:0.003% N-P-K=20-12-12 [住友化学]	・直播水稻での側条施用における倒伏軽減および葉害の検討	継	継)効果・葉害の確認